



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

夏

平成28年

2016年6月

会報 第64号

## 目次

巻頭「伊達悦子先生を偲ぶ」

平成28年度定期総会・中央地区研修会報告

事務局報告 第18回チャリティーコンサート

第19回星の家まつり

寄付・会費納入者

編集後記



## 伊達悦子先生を偲ぶ

事務局長 福田 雅章

去る6月3日（金）朝、名誉理事長の伊達悦子先生がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

星の家が、今日までの19年間、多くの人に支えられてやってこられたのは伊達先生がいたからです。星の家の活動は、平成9年5月10日の「青少年の自立を支える会準備会発足の集い」に始まります。伊達先生は、この集いの後に活動に加わりました。先生の参画によって活動に核ができ、7月には伊達先生を代表とする「青少年の自立を支える会」が正式にスタートしました。伊達先生の尽力によって支援の輪がどんどん拡大し、9月1日の星の家開所の時には、すでに会員数は400人に達し、集まったお金は500万円を超えていました。そして平成11年5月にはNPO法人となり、伊達先生が初代の理事長となりました。さらに平成14年11月には、県内で1番目、全国で10番目の国税庁認証のNPO法人となり、確実に成長していきました。19年5月に理事長を退任されるまでの10年間、社会的養護の子ども達の幸せを一途に願い、本会を引っ張って行って下さいました。

私が伊達先生を知ったのは、平成5年に児童養護施設に奉職してからです。当時は、県内の

児童養護施設の高校進学率は50%程度で、高校に進学できる力のない子どもは、施設を出るを得ず自立を強いられていました。しかし、社会的養護にある子どもに対する世間の関心は低いもので、為政者らは誰もこの状況を変えようとしませんでした。そんななか、先生は、私が知る限り県内ではただ一人、社会的養護をフィールドとして研究をされ、現場の課題を社会に発信していましたし、よく施設にも足を運ばれ、示唆に富んだ有益なご助言をたくさん下さいました。

私が先生のお元気な姿を最後に拝見したのは、昨年10月の星の家祭りのときでした。理事長を退任された後も、星の家祭りには毎年お越しになっていましたが、祭りの盛況ぶりを見て安心しているようでした。私は、先生が大学教授としてまた心理臨床家として、精力的に活動している姿ばかり見てきましたから、病床から必ず現場に復帰してくるものと信じていました。それがこんなに早くお亡くなりになるとは。とても残念です。

私たちは伊達先生の思いをしっかり受け継ぎ、青少年の自立を支える会をさらに盛り立てていかなければなりません。伊達先生のこれまでのお導きに心より感謝し、安らかに永遠の眠りに

つかれる事をお祈りいたします。

5月29日(日)、28年度定期総会および中央地区研修会がとちぎ青少年センター(アミークス)で行われました。

### 総会報告

星理事長より開会挨拶があり、児童福祉法改正により自立援助ホームを「社会的養護のシステムからの大学生」の受け皿にという声もあるが、変わりゆく状況をしっかりと見据え、進むべき方向を探りながら前進して行かなければならないという話がありました。

はなの家スタッフの塩尻さんより、定足数38名(平成28年3月31日現在の正会員数187名)のところ、本日出席の正会員数20名、委任状95名で総会が成立しているという報告があり、議長に小林幸正氏、議事録署名人に石原幹司郎氏、石川浩子氏を選任して議事に入りました。

第1号議案 平成27年度事業報告並びに収支決算について、福田事務局長より説明がありました。「星の家」は27年度中15名の入退居があったこと等が報告され、ファミリーホーム「はなの家」、子どもの居場所「月の家」の運営についても説明がありました。

監事の宇賀神慶子氏より、平成28年5月23日に星の家で実施した会計監査の結果「適正に処理がされている」との報告があり、全会一致で第1号議案は承認されました。

第2号議案 平成28年度事業計画並びに予算案についても福田事務局長より説明があり、今年度は8月11日に倉沢大樹さん出演でチャリティーコンサートを開催、11月20日に星の家まつりを開催するとの話がありました。

「星の家」、「はなの家」、「月の家」の現状についての話もあり、事業計画、予算案についても全会一致で可決されました。

本日出席の方から二つ質問がありました。

一つは、「自立援助ホームは児童養護施設退所児のアフターケア施設という位置づけであったが、最近では施設での生活経験のない子ども＝社会的養護のシステムからこぼれてしまった子どもの入所が多くなっている。その中で、ケア方針や関わり方、自立援助ホームの位置づけで変わっていく事があるのか」という質問でした。これに対し星理事長は、ケアの中心は当初から子どもと共に暮らす、一緒に生活をするという事。子どもが生きていていいと思える関わりを作っていく事が大切。自立援助ホームは帰ってくる場所。一緒にそれから先の人生を生きていくという考えは昔も今も変わらないと話されていました。

二つ目は、「モデル事業である月の家をこれからも継続させていくためにはどうしたらよいか、月の家に関わる方は市との話し合いの中で、どんな事をこれからしていかなければならないと思っているのか」という質問でした。これに対し福田事務局長より説明があり、ニーズはたくさんあるが、親が支援を求めない。それを行政は見ようとしていないとしか思えないと現場は感じていると話されていました。

小林氏のスムーズな議事進行により全ての議案が原案どおり可決され、小林氏が議長を降りられました。小林さん、ありがとうございました。

## 研修会報告

研修会は「頼れる家族がない子どもの自立～星の家のOB・OGの座談会～」をテーマに星理事長、福田事務局長、星美帆さん、塩尻真由美さん、OB・OG(6名)による座談会が行われました。

コーディネーター 福田雅章(本会事務局長)  
参加者 星の家OB3名・OG3名  
星俊彦(本会理事長・ホーム長)  
星美帆(星の家)  
塩尻真由美(はなの家)



**★星の家を出るまでに経験した事や感じた事を話して下さい。**

J.K:自分が話したいテーマは「支えと自立」。16歳から3年間、星の家で暮らしました。私には親が居ないので、3歳から施設で過ごし、施設での生活が当たり前で、大人に対して不安感や不信感が強くて好き勝手にやっていました。中学校に入る頃、学校の先生や友達に「親が居なくて寂しくないの?」「親に会いたくないの?」と聞かれる事が増えました。その時はそこまで違和感はなく、何がかわいそうなのか、親が居ない事がそんなに周りの子と違うのかと思っていました。不自由さを感じたのは、周りの子が持っている物を見て、なぜ自分にはないのかうらやましく感じ、何で自分だけ…という気持ちが膨らんでいきました。高校進学はせず施設の紹介で住み込みの現場仕事に就き、一人暮らしを始めて口うるさい大人が居ないからやっと自由になれたと思いました。でも、いざ働き始めて「働く」という事がどれだけ大変か身をもって感じました。仕事は長続きせず、半年経って何も言わず夜中に荷物をまとめ友達の家へ。とりあえずその時は楽しければいいと何も考えていませんでした。でも友達の家にも長くは居られず、居場所も貯金も無くなりました。そんな時ちょうど児童相談所との関わりがあり、星の家に入る事に。最初に言われていた事が、家賃を入れる事と貯金。家賃を入れる事には納得していたが、なぜ貯金をするのか分かっていませんでした。毎回給料日には星さんや美帆さんと揉める事が多く、最終的には星の家を出ていきました。戻

ろうと思えば戻れたけど、自分で出来るという気持ちがあり、つまらない意地を張っていました。車上生活をする中で、何をやるにもお金が必要という事が分かりました。コンビニの駐車場で寝ていたら、近くに住んでいる方が話を聞いてくれたり、ご飯を作って持ってきてくれました。それをきっかけに人に何かをしてもらう事のありがたみを感じ、そこからまた仕事も生活も落ち着き、やっと整い始めた自分の生活。でもずっと心に引っかかっている事がありました。それは「周りとの差」。自分はこの先どうなっていくのだろう、普通の大人になれるのかと不安でした。今は23歳で自立していますが、星の家に居る子からしたら自立がゴールかもしれません。でも私はそのゴールからさらにスタートを切っています。自立してさらに先に進める事もたくさんあると思います。

I.N:自分は中学を卒業してから働き始めて、なぜ働かなくてはいけないのかという気持ちもありつつ、仕事をしなければお金が入らないので、生活が出来ないために友達の家に行きました。その友達とは昔から悪ふざけばかりしていたが、これではいけないと思いました。そんな時自分を探してくれている、自分が悪い時に支えてくれる大人が周りに居て、救われました。今こうして仕事を続けられていられるのも星さん家にお世話になったからだなと思います。

K.O:二人の話を聞いて自分も重なる所があって、親の事に関してはまだ許してはいないので、

会いたいという親からの連絡を未だに無視しています。

**T.I:**自分は普通の家に生まれて、高校一年で中退して親とケンカをして、家を出ました。家を出して親に反発をしてそのまま星の家へ。自分の家は門限やルールが厳しく、何で大人に押さえつけられて縛られなければいけないのかと思っていたが、星の家に来て大人に対してありがたみを知る事が出来ました。

**A.T:**親の事は未だに許してはいない。実家でおばあちゃんと暮らしていて、色々うるさく感じぶつかって、それで星の家に来て実家に居るよりはいいかなと思うようになり、ほど良い距離の方がおばあちゃんとも上手くいくようになりました。星の家に来て自分で生活をして良かったなと思う部分もありました。

**Y.K:**星の家で生活をするようになって、仕事が出来るようになりました。

**塩尻:**私は星の家への入居はありませんが、星さん・美帆さんとは3歳からのお付き合いなので、30年を超えています。二人が星の家を始めると聞いた時に、施設の中でも子ども達の事をすごく可愛がってくれていたのも、とても良いなと思いました。社会人になって星の家と関わる事はなかったが、電話をしたりたまに遊びに行ったりする中で、当事者として施設で暮らした経験を話すという活動を始めました。その時にもやっぱり二人が居る所だからやりたいと思いました。今日ここに集まっている人たちも社会的養護のくくりの中では後輩にあたると思いますが、一歩ずつ二人の思いの中、星の家は築き上げられてきたのかなと思っています。

**美帆:**私や星さんを褒めてくれる子たちを呼んだわけではありません。星さんも私もOB・OGに来てもらって話をしてもらいたいと思っていました。でも子ども達は人前で話をするのは嫌だろうなとも思っていました。そんな気持ちの中連絡をしたら、いいよと言ってくれました。その言葉を聞いて、子ども子どもと思っていたけど、みんな力になりたいと思ってきているんだな  
★今子ども達に、仕事の支援・仕事について、社会人先生として教えているのですが、こんなこ

とすごく嬉しかったです。今日来てくれた6人とは、星さんも私もそれぞれに口をきかない時期があったり、大声を出し合って色んなやりとりをしたメンバーです。何事もなくみんなが真面目にやっていたではなくて、色んな事、揉め事がいっぱいあって、それが私たちの「宝」になっています。中には星さんに迷惑をかけすぎたから星の家には行けないよという子もいて、そういう事があっても時間が経てば笑って話せるようになるから、OB・OGには二人に顔向け出来ない、行けないと言わせないようにしたいなと思っています。

**星:**今私が何を考えたかという、俺はいったい何をしてきたのだろう、何もしてないじゃないかという気がして、勝手に成長していくものだなと思いました。今日来ている人達は、私の携帯に残っている人、連絡がつく人、連絡をしても快く引き受けてくれそうな人達で、他にも連絡先が残っている人はたくさんいるが、言しやすい人達です。そういう意味では、やっぱり星の家に居た時の関係がどんな風に途切れるのかという事を改めて考えさせられました。みんなが快く承諾してくれた事が本当にありがたい事で、こういう場に出てくる、話をする事にすごく感動しました。

### OB・OG、塩尻さんの話を聞いて、



### ～会場からの質問～

としてもらいたかったなど、要望や希望があれば聞かせて下さい。

I.N:自分が仕事を辞めてしまう時は、仕事が嫌になるのではなくて友達と遊びたいという気持ちが強くて、仕事に行かなくなる事が多かった。周りの友達との付き合い方についてアドバイスなどがあればよかった。

J.K:仕事が嫌いなわけではない。ただ自立する自覚がなかった。なぜ自立をしなければならないのかを伝えてあげてほしい。

Y.K:仕事の悩みなどを寝るまで聞いてもらって仕事に行けました。誰でもいいから話を聞いてほしい。

K.O:何かをしてほしいというより、仕事を変えていく中で、履歴書を見て「かわいそうな人生を送ってきたんだね。」と言われ、施設に居ても何も変わらないので、施設の子だから一般の子とは違うという壁を作らないでほしい。

★話の中で「自立」という言葉が出てきますが、みなさんよっての自立に対するイメージを教えてください。

真由美さん:一般的に世間のイメージは、一人立ち、一人で生活をする、自分で生活費を稼いで生きていくことだと思います。私が思う自立は、自分が自分を認めてあげられるという事だと思います。「ちゃんと自己紹介が出来る」、人に聞かれたときに「私はこうです。」と言える何かがあるのが自立には大切かなと思います。

J.K:自分の自に立つと書いて自立のように、自分で立つには誰かの支えがあるから立てるのかなと思います。イメージ出来ないから自立出来ないのかなと思います。

I.N:自分は住む所と仕事を自分で保てる場所を作った時が、自立しているという意味ではないかなと思います。

T.I:自分の自立のイメージは、人に支えられた事を感謝できる事が自立ではないのかなと思います。

K.O:心配されなくなった時が自立かなと思う。会った時に仕事はどうなのかと聞かれるので、そういう事を聞かれなくなったら自立かな…

A.T:今感じる事は、自立した後が一番大変で、

生活をどう続けていくか、どこまで続けられるかという心配もでてきたりとか、星の家に居る時は全然考えなかったのが一人になってからすぐ考えるようになって、それをどうしていくかを自分で考えられるようになったら自立したとなるのかなと思います。

## 座談会を終えて

話されたことは、この紙面ではとても書き尽くせません。ほんの一部を抜粋して掲載しました。会場に来られた方は一様に「よかった」「感動した」とおっしゃってくれました。

星の家ができて来年で20年。子どもの自立の困難さを訴え続けて、多くの方々の支援を受けてきました。星の家の成果をやっと皆様に示すことができるようになってきたのかなと感じました。会場もいっぱいになったし、子どもの生の声がやっぱり一番だと改めて気づかされた研修会でした。(コーディネーター 福田)

## 《事務局報告》

### 第18回チャリティーコンサート

日時 平成28年8月11日(木)

15:00 開場

場所 栃木県総合文化センターM1ホール

出演者 倉沢大樹、島田絵里 他

チケット販売中(自由席1000円)

### 第19回星の家まつり

日時 平成28年11月20日(日)

場所 わかくさアリーナ(福祉プラザ隣)

バザー物品募集中です!

ボランティア募集中です!

問い合わせは028-666-6023(星の家)

# 寄

## 付・会費納入者

平成28年1月1日から平成28年5月末まで  
敬称略・順位不同

### ●正会費

宇賀神文雄 梶田みどり 菊池順子 北川良江 吉光寺ヒロ子 喜内敏夫 小堀 泉 笹沼榮子 鈴木征夫 高橋文吉 田村 隆 島山由美 星 俊彦 星 美帆 増淵ヨシエ

### ●賛助会費

大浦智子 小堀道和 櫻井きよ子 笹澤忠雄 佐藤由紀子 武田陽一 槌江徳子 福田知美 渡邊里子 和田米子

### ●団体

養徳園睦会

### ●寄付者

浅野道子 穴田あゆ実 穴田晃子 新井 崇 池谷正宏 石田千織 石塚 毅 宇都宮中央ライオンズクラブ 宇都宮南ロータリークラブ 大越光世 大出昌広 岡本貞子 片桐朝生 片桐叶人 片桐洋史 加藤カヨ 菊池順子 北川良江 吉光寺ヒロ子 喜内敏夫 古頭岳夫 駒場芳雄 笹沼榮子 佐藤由紀子 鈴木俊男 高橋尚美 高橋文吉 滝澤由紀子

瀧田玲子 武田陽一 田中裕子 栃木県更生保護女性連盟 直井 茂 長靴をはいたねこ 長島須美子 中田芳幸・心春 中村光子 沼尾泰子 芳賀淳史 島山由美 福田知美 増山律子 松江比佐子 三上 勸 矢野正広 湯本 尊 吉成勇一 吉田久枝 若林藍子 和久井孝洋 和田 寿子

なお、沢山の方から食品や日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせください。

### 【編集後記】

はなの家のスタッフを募集しています。夏休みが近づき、人手が必要になっています。働き方は相談に応じます。里親、または里親に関心がある方など、はなの家で子どもにかかわってみるのもいい機会かなとも思います。

星の家、だいじ家でも目の前の子どものためにがんばっています。そして事務局も頑張っています。

ボランティアでもなんでも人手がほしいです。例えば、この会報の編集を手伝ってくれる人。

### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\* 通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

\*\*\* 振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております！\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

発行日/ 2016年1月16日

発行責任者/ 星 俊彦

編集責任者/ 福田雅章

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>

